

南 八 郎

原作者 帝キネ 時代映畫  
監督者 小國比沙志  
撮影者 矢内政也

主要役割

長州藩士騎兵隊副隊長 市川百々之助  
川上彌七郎 南八郎  
新撰組伍長榎本正之助 片桐恒男  
生野謀主澤水正嘉宣卿 尾上松二  
秋月藩士戸原卯橋 佐賀清一  
長州藩士和田小傳次 長田芳川  
筑前藩士平野治郎國臣 喜多見順  
封問勘八 畔柳藤夫  
目明し仙吉 中村翫曉  
長州藩士西村精太郎 堀村修  
同下瀬熊之進 寶來數二  
長州藩士高杉晋作 日正龍太郎  
出石藩士多田綱太郎 金井龍三郎  
河内藩士肥田左衛門 日ノ本一男  
長州藩白石鹿藏 同小田村信之進  
同小田村信之進 同小田村信之進  
同小田村信之進 同小田村信之進  
同久留豐 同久留豐  
同伊藤百合五郎 同伊藤百合五郎  
同長谷川潜藏 同長谷川潜藏  
町娘お艶 若柳みどり  
勤王藝妓小舟 望月禮子  
舞妓おもちや 梅村花子

解説 矢内政治氏の「室町情史」に次ぐ作品である。

略筋 櫻花爛漫たる春なれど勤王の急先鋒として戦ふべき南八郎は藝妓小舟との戀にも酔ひきれぬ一抹の淋しさがあつた。新撰組伍長榎本正之助、情婦お艶、目明し仙吉等は種々の計畵を以て八郎の身邊を狙つたが、彼の油断なき態に以て八郎は容易に召捕られなかつた。

機愈々熟して八郎は同志と共に三田尻へ出發の前夜、藝妓小舟は自害して八郎の首途を勵まし



寫眞 一南八郎一帝キネ矢内政治作品。右より望月麗子、市川百々之助、梅村花子

た。涙と共に出立した彼は途中更に同志和田小傳次の死を悼みつ、平野國臣、戸原卯橋等と共に澤主水正嘉宣卿を迎へ、かれて大和に義兵を擧げし中山忠光卿と東西相呼應して破竹の勢で生野縣廳を占領した。折柄兵勢一變して忠光卿敗走の報は接し、一同愕然としたが時既に遅く幕府は生野追討の大軍を發した。かくて山口村に戦端は開かれ悪戦苦闘の末、悲壯なる最後の評定は開かれ、進軍、退却論を異にし平野國臣は卿を奉じて京師に走り、八郎、戸原共に最後の奮戦をしたがいたましくも戦破れ、皇國萬歳を叫びつく散つて逝つた。